

平成26年度第2回佐久市総合計画審議会 会議次第

日時：平成26年10月23日（木）

午後1時30分～

場所：佐久市役所 議会棟全員協議会室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 事

（1）第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について

- ① 各部会審議報告について
- ② 審議会答申について

（2）その他

4 閉 会

26 佐 総 審 第 号
平成 26 年 10 月 日

佐久市長 柳田 清二 様

佐久市総合計画審議会
会長 檜山 高士

第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について（答申案）

平成 25 年 8 月 25 日付け 25 佐企第 52 号で諮問のありました第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について、平成 25 年度における各施策の進行状況に対する評価等を本審議会でも慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおりまとめましたので答申します。

なお、市民目線又は専門的な見地から、多くの意見が出されましたので、今後の各施策の取組及びその進行管理に反映し、市民福祉の向上と行政の効率化のため、より一層の努力をされることを期待します。

平成25年度 第一次佐久市総合計画
後期基本計画の進行管理に関する答申書
(案)

平成26年10月
佐久市総合計画審議会

1 経緯

佐久市総合計画審議会（以下「審議会」という。）は、第一次総合計画後期基本計画（以下「後期基本計画」という。）の策定に当たり、市に対し、計画内容の進捗状況を随時把握し、市民に公表するようにとの答申を行った。

これを受け、市長から、審議会に対し、後期基本計画についての進行管理に関する諮問があった（平成25年8月5日付け25佐企第52号）。

本答申書は、当該諮問に対する審議会の評価結果及び審議内容について報告するとともに、市に対し、各施策の推進及び進行管理の方法の改善により一層の努力を求めるものである。

2 審議事項

第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理について

3 審議経過

開催日	会議名	審議内容等
平成26年8月29日（金）	第1回全体会	変更委員委嘱、第一次佐久市総合計画後期基本計画の進行管理についての進め方の確認、部会の委員構成の確認
	第1回部会	部会長互選（第2部会）、副部会長互選（第1部会）、各施策において掲げられた「目標」の平成25年度の達成状況に対する結果分析及び今後の取組方針並びに「チャレンジ」の平成25年度の取組内容及び今後の取組方針に対する妥当性評価の実施
9月17日（水）	第2回部会 （第1・第2部会）	各施策において掲げられた「目標」の平成25年度の達成状況に対する結果分析及び今後の取組方針並びに「チャレンジ」の平成25年度の取組内容及び今後の取組方針に対する妥当性評価の実施
9月24日（水）	第2回部会 （第3部会）	
10月23日（木）	第2回全体会	部会報告、答申内容の確認

4 審議方法

（1）評価方法

第一次佐久市総合計画後期基本計画の施策ごとに掲げられた「目標」及び「チャレンジ」に関し、「目標」にあっては平成25年度の実績値に対する結果分析とそれを受けての今後の取組方針について、また、「チャレンジ」にあっては平成25年度の取組内容と今後の取組方針について、項目ごとに概要説明を受け、当該結果分析若しくは取組内容又は今後の取組方針が、それぞれの「目標」及び

「チャレンジ」の達成に向け、妥当であるか審議会の立場から評価を実施した。

(2) 部会審議

今回の評価に当たっては、市の全施策を対象としていることから、後期基本計画の章に応じ3つの部会を設置した。各部会においては、担当章に該当する施策に係る「目標」及び「チャレンジ」の進行状況について、部会としての評価をまとめた。また、市の取組状況等について、必要により内容の修正を求めるなど、市民に公表する際に市の取組状況がより分かりやすいよう配慮することとした。

(3) 全体審議

部会ごとの評価結果をもとに全体会議において審議を行い、審議会としての評価をまとめた。

5 審議の結果

(1) 「目標」及び「チャレンジ」の進行管理について

それぞれの「目標」及び「チャレンジ」の進行状況に対する意見や提案等は、別紙「第一次総合計画後期基本計画「目標」の進行状況（まとめ）」及び「第一次総合計画後期基本計画「チャレンジ!!」の進行状況（まとめ）」に特記事項として記したため、今後の施策展開及び進行管理に生かしていただきたい。

(2) 各種資料の作成方法及び評価方法について

平成25年度の「目標」及び「チャレンジ」の進行評価のために審議会に提供された各種資料、評価の方法については、別紙「評価の仕組み及び資料の作り方について」のとおりであるので、より適正な評価を行えるよう改善願いたい。

(3) まとめ

今後も、第一次総合計画後期基本計画の適切な進行管理と着実な施策展開により、市民一人ひとりが描く「佐久らしさ」を追求し、将来の佐久市が全ての市民にとって魅力的であり続けることができるよう強く望む。

第一次佐久市総合計画後期基本計画「目標」の進行状況(まとめ)

資料 5

<色別表示の見方>

■:目標の推移が「順調」
■:目標の推移が「概ね順調」

■:目標への進行状況が「やや遅れている」
■:目標への進行状況が「遅れている」

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
1	111	文化・芸術	貸し館系施設の利用件数	件/年	8,705 [H22]	9,500	9,889	9,023	10,916	順調	芸術文化への関心の高まりや高齢者等の余暇利用から、貸館の利用件数が増えていると考えられる。	利用者の利便性を考え、利用しやすい親しまれる施設運営をしていくとともに、利用する人を支援する施策を検討していく。	目標達成	利用件数が大きく減少している施設に絞ったり、傾向分析を行ったりして、計画的に増加策に取り組んでいただきたい。
2	観覧系施設の延べ入館者数		人/年	38,844 [H22]	40,000	35,802	39,306	35,802	遅れている	各施設とも、企画を考えて実施し入館者増を図っているが、入館者数は変化していないことから、減少傾向は継続していると考えられる。	展示・展覧会の企画に力を入れていくとともに、講演会やワークショップなどの講座を引き続き開催し、入場者の増加に取り組む。		施設ごとに傾向分析を行い、施設ごとに必要な入館者数の増加策を中長期の計画により推進していただきたい。	
3	少年考古学教室参加者数		人/年	67 [H22]	80	78	72	87	順調	教室の内容を発掘調査体験から作業体験に変更し、参加者が増加した。	少年考古学教室を継続するとともに、児童生徒が参加しやすい時期に開催することや、文化財への関心を高めるための内容などを検討し、「順調」の評価を維持することを目指す。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
4	112	地域間交流・国際交流	国際交流フェスティバル延べ参加者数	人/年	2,800 [H22]	3,500	2,750	3,080	2,500	遅れている	ポスター、チラシにより広報に努めたが、参加者は目標値を下回った。	民間団体が主体となって開催できるイベントについては、民間団体への移行を図る。		中学生の参加は教育面でも有効なことから、多く中学生が参加できるよう各中学校との連携により自主的な参加が促進できるよう進めて欲しい。また、AETの先生を活用するなどにより、参加者数の増加を図って欲しい。
5	国際交流サロン延べ参加者数		人/年	319 [H22]	400	309	351	328	やや遅れている	事業を企画するボランティア団体からのサロン開催希望が減ったことにより、開催回数が減少し、参加者数は目標値を下回った。	国際交流サロンは、外国籍市民と日本国籍市民の交流の場として事業を継続するが、事業の企画、運営をはじめ事務局についても民間団体への移行を検討していく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
6	空き家バンク掲載物件の契約成立件数		件/年	39 [H22]	50	47	43	59	順調	佐久市空き家バンクの周知が図られていることが契約実績に結び付いている。	利活用可能な空き家の掘り起こしにより、引き続き空き家バンクの充実を図る。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
7	113	人権尊重社会	人権教育・啓発事業などの延べ参加者数	人/年	8,105 [H22]	8,500	11,033	8,263	10,135	順調	新たに福祉施設や新任・転入教職員への研修会、また、区に対して学習会について積極的な呼びかけを行ったことで、目標の成果が得られた。	人権同和教育講座や各区への学習会、また、学校・企業での研修会を開催し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
8			隣保館活動などの延べ参加者数	人/年	5,227 [H22]	5,300	6,025	5,256	6,073	順調	身近な内容の事業であったことと、広く市民に情報提供をしたため、目標の成果が得られた。	地域の実態やニーズに合わせた身近な内容等を取り入れた事業を引き続き実施し、地域住民との交流を促進していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
9	114	男女共同参画社会	審議会などにおける女性委員の登用率	%	18.1 [H22]	25.0	19.7	21	20.5	概ね順調	各課へ呼び掛けてきたことにより、女性委員の登用が微増ではあるが上がってきている。	機会あるごとに各課への呼びかけ協力を仰ぐとともに、一般公募の中に率先して手を挙げていけるような、女性の人材育成を図っていく。		登用率の向上のため、さらなる努力を期待する。
10	122	学校教育	小学校不登校児童の割合	%	0.36 [H22]	0.32	0.51	0.34	0.60	遅れている	家庭環境がより複雑になり、昼夜逆転等で生活リズムが乱れている児童が増加してきているため。	児童相談所や子育て支援課等、関係機関との連携を密にし、児童の家庭環境の大きな変化をいち早くつかみ、適切な対応をしていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
11			中学校不登校生徒の割合	%	3.24 [H22]	2.74	3.35	3.04	3.46	遅れている	関係機関との連携をより深める努力をしたところ、不登校生徒の数は減少したが、目標値には及ばなかった。	日々の欠席状況の把握や生徒との教育相談の機会を定期的に設けることなどに重点を置き、不登校状況を未然に防ぐための努力をしていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
12	123	高校教育・高等教育	奨学金制度利用者数	人/年	32 [H22]	40	21	35	49	順調	制度の周知が進み利用者は順調に推移している。	制度のPRとあわせ、他の制度や、他の自治体の制度と比較検討し、本制度が、さらに活用されるよう、改善していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
13	124	青少年の健全育成	各地区の育成活動への延べ参加者数	人/年	183,139 [H22]	184,000	167,007	183,483	146,429	遅れている	年々児童数の減少が大きくH22年度とH25年度を比較すると、児童数は365人減少し、育成会活動への参加延べ人数は36,710人減少となっている。今後も児童数の減少は続くと考えられるので、目標値への達成は難しいと思われる。このような中で、育成会活動や地域体験活動を更に推進するためには、育成会活動の取組に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等による支援が必要である。	各地区の育成会活動への支援として、個々の取組内容に対するアドバイスや他地区との合同開催の提案等を推進する。		市で各地区の育成を支援していただきたい。

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度		評価				
								目安値	実績値					
14	131	生涯学習	生涯学習市民のつどいなどのイベント延べ参加者数	人/年	31,394 [H22]	32,000	29,371	31,636	37,380	順調	参加者数については、イベント数の増減および天候により変動するが、25年度は目標値を超えることができた。	生涯学習の機会に関わる情報の提供は、手法、場所等について工夫を重ねて行く。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
15	公民館事業別延べ参加者数		人/年	37,106 [H22]	38,000	33,978	37,464	25,733	遅れている	台風接近による「コーラスまつり」の中止や、2月の大雪により「公民館のつどい」が中止になったことから大幅な減となった。	引き続き、公民館事業参加者の獲得に向け、事業内容の見直しや、事前のPRを実施していく。		台風や大雪などの特殊事情による参加者の減少も分かるが、今後は地域の皆さんのニーズに答えるような講座やイベントの開催などで工夫してもらい、特色を出してほしい。	
16	図書などの貸出し冊数		冊/年	531,901 [H22]	600,000	567,453	559,141	534,284	遅れている	前年度に比べ開館日数が5日少なかったこと(2月の大雪による臨時休館2日含む)や、大雪により、開館中でも来館者が激減した日が2週間ほど続いたこと。またシステム更新作業のため、貸出しを行えない期間が10日間あったことなどにより、貸出し冊数が伸びなかった。	平成26年度から始まる読書通帳事業や、望月の読書に心地よい椅子コンテスト等により利用者拡大のための工夫を図る。		台風や大雪などの特殊事情による参加者の減少も分かるが、今後は地域の皆さんのニーズに答えるような講座やイベントの開催などで工夫してもらい、特色を出してほしい。	
17	132	スポーツ	スポーツ教室延べ参加者数	人/年	4,225 [H22]	5,000	4,328	4,535	3,046	遅れている	参加者不足により中止となった教室が5教室あったため、昨年より少ない結果となった。	市民ニーズを把握し、教室の内容を検討するとともに、指導者の発掘・育成をしていく。		今後の努力に期待したい。
18	スポーツ大会延べ参加者数		人/年	15,912 [H22]	17,500	13,453	16,547	13,644	遅れている	悪天候により、1大会が中止となったが、1大会が新たに加わった事により昨年とほぼ同じ結果となった。	参加チームや参加者の減少している大会は、競技団体と今後のあり方を検討する。		今後の努力に期待したい。	
19	体育施設延べ利用者数		人/年	631,300 [H22]	700,000	635,910	658,780	686,948	順調	平成25年4月に佐久総合運動公園陸上競技場がオープンしたことや、平成23年度に改修を行った臼田テニスコートの利用者が年々増加していることによる。	体育施設の効率的・効果的な管理運営について指定管理者制度の導入を検討する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
20	211	高速交通ネットワーク	長野新幹線の延伸(長野-金沢間の開業)		未開業 [H22]	開業	26年度開業予定	26年度開業予定	実績値なし	金沢までの延伸開業が平成27年3月と決定した。列車名についても「あさま」の名前が残った。	北陸新幹線の佐久平駅停車本数確保に向けて関係機関へ働きかけて行くとともに、敦賀までの速やかな着工と金沢-大阪間の早期全線開通を目指し関係団体と協力していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
21			中部横断自動車道佐久南インターチェンジ-八千穂インターチェンジ(仮称)間の開通		未開通 [H22]	開通	28年度以降の開通	28年度以降の開通	実績値なし	本区間について、平成26年4月に国土交通省より平成29年度に開通と公表された。	29年度開通に向けて、道水路整備事業、中部横断自動車道調整事業を進捗させる。併せて、県施行の県道上小田切白田停車場線アクセス道の整備促進していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
22			中部横断自動車道八千穂インターチェンジ(仮称)から長坂ジャンクション(仮称)間の整備計画格上げ		基本計画区間 [H22]	整備計画区間	未定	未定	実績値なし	計画段階評価が行われルート帯案が決定。今後の対応方針案がまとまり、次に整備区間への格上げの段階。	今後は、環境アセスの実施、整備区間格上げに向けて要望活動を行っていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
23	212	地域交通ネットワーク	幹線道路整備延長	m	4,731 [H22]	8,231	6,127	6,131	7,440	順調	事業用地取得などが順調であったため、目安値以上の進捗となった。	財源確保、コスト縮減に努め整備延長を確保する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
24			都市計画道路整備延長	m	59,527 [H22]	63,377	64,845	61,067	66,400	順調	中部横断自動車道の整備が進んだことにより、目標値を大幅に上回った。	すでに目標値を達成したが、引き続き、今後も整備に努める。	目標達成	都市計画道路のうち長年指定されたまま未着手となっている路線についても、今後の対応を検討してほしい。
25			アダプトシステム管理箇所数	箇所	3 [H22]	19	16	9	17	順調	新規供用路線を中心に、積極的に事業への参加を提案しており、実績に結びついている。	アダプトシステム事業を周知し、大勢の市民の方々に参加していただくように普及を推進していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
26			公共交通延べ利用者数	人/年	113,538 [H22]	125,000	108,768	118,123	103,595	遅れている	商業施設への停留所の新設、バリアフリーバスを導入して間がないため、その効果は未だ顕著でないと認められる。	公共交通乗車体験イベントの開催、利用者のニーズを反映した路線変更等により、利用者の確保に努める。		より多くの市民が車利用から公共交通機関の利用に転換を図り、より効率的な交通体系を構築できるよう、研究を進めていただきたい。
27	221	土地利用	宅地面積	ha	2,337 [H21]	2,492	2,378	2,399	2,386	概ね順調	幹線道路及び都市計画道路の整備の進捗に伴い、沿線農地の転用等により、宅地面積が増加した。	雇用増加や定住者増加を目指し、適地において工業用地、商業用地などの宅地化の推進を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
28	222	市街地	跡部白田線・龍岡城駅線の整備率	%	0.4 [H22]	100	32	40	46.18	順調	事業費全体に占める用地補償費の事業割合が高く、地権者との契約率が高かったため目安値以上の結果となった。	事業完了にむけて、今後も事業を進めていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
29	223	住宅・宅地	住宅マスタープランの策定		未策定[H22]	策定	未策定	部分的策定	部分的策定	やや遅れている	平成26年3月に公営住宅整備計画と位置付ける中で、佐久市公営住宅長寿命化計画を策定した。	今年度予定されている公共施設マネジメント基本方針における公共施設再配置計画(仮称)、平成29年度に策定される第2次総合計画、また、今年度から始まった県の長寿命化計画の見直し状況等を勘案しながら、平成32年度以降の長寿命化計画の見直しを踏まえ、策定期限、内容について考える。		住宅施策の推進については、市内に見られる空き家との関連で総合的に進めていただきたい。市営住宅のみならず、市が管理している公共施設の長寿命化と増減は、意見調整しながら実施していただきたい。
30	231	高度情報通信ネットワーク	電子申請の件数	件/年	289[H22]	500	909	373	1,658	順調	利用項目が増加したことにより、利用機会も増加したため、数値が緩やかに伸びた。	目標値を超える結果の維持に努める。	目標達成	現状に甘んじることなく、より高みを目指して今後も引き続き取り組んでほしい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
31	311	農業	認定農業者数	経営体	268 [H22]	310	270	285	269	遅れている	農業者の高齢化により、認定農業者を更新しない方がいるため、減少傾向である。	農業後継者等若い農業者へ認定農業者制度を理解してもらい、育成することで目標の達成を目指す。		地産地消の推進、遊休農地の解消、後継者不足への対応など、農業を巡る施策には課題が多くあるので、市が常に先取りして指導を行うなど、取り組みを進めていただきたい。
32			農業アシスタント数	人	20 [H22]	70	18	40	41	順調	平成25年より、野菜の講習会を新品目圃場で開催し、受講者数の増加につながっている。	様々な品目の講習会を開催し、受講者を増やす。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。また、アシスタントから新規就農者の増加につながるような施策を展開して欲しい。
33			農業法人数	法人	16 [H22]	20	21	18	22	順調	経営の安定化を図るため、法人化する農業者が増加している。	国の事業等を利用しながら、法人化を目指す農業者を支援する。	目標達成	農業振興のため、行政が積極的にかかわる中で、より高みを目指して、取り組んでもらいたい。
34			農畜産物産出額	億円/年	108 [H18]	110	データ入手不可能		データ入手不可能		(本項目は、国が市町村別の統計調査を行っていたが、平成18年度調査を最後に調査が行われなくなった。現在、全国市長会を通じて、国に対し、調査の復活の要望を行っている。)			
35	312	水産業	佐久鯉出荷量	t/年	110 [H22]	115	99	112	99	遅れている	以前に比べて需要が減少している。	料理教室などを開催し、佐久鯉の様々な調理をPRする中で、需要の拡大を図る。		佐久鯉の普及に当たっては、見た目や匂いで敬遠しないよう、PRや食べ方の工夫を行っていただきたい。
36	313	林業	森林整備面積	ha/年	610 [H22]	780	430	678	520	遅れている	平成24年度より森林整備に対する補助要件が厳しくなったため、目標とした面積に至らなかった。	市有林の整備を推進し、目標とする森林整備面積を達成させる。		市有林だけでなく、民有林の整備に対する支援を検討して欲しい。また、森林整備の防災面における効果に着目し、光が入らず、草も生えない状態の箇所の間伐を進めるとともに、限られた財源を有効に使えるよう、整備効果を踏まえた計画的な整備を進めていただきたい。
37	321	商業・サービス業	商品販売額	億円/年	1,994 [H19]	2,100	1,656	2,036	未公表	実績値なし	経済状況がデフレ傾向にあり平成19年から平成24年は販売額が17.0ポイント減となっている。平成26年には経済センサスが実施されることから調査結果を注視していきたい。	商品販売額は、平成9年から下落しており、目標値の達成は厳しい状況にあると思えるが、空き店舗対策に伴う補助金を平成26年度に創設し、空き店舗の解消に努め商店街の環境整備を図り商品販売額の増加を目指す。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
38	331	観光	市内への延べ入込客数	万人/年	162 [H22]	190	152	173	148	遅れている	2月の豪雪により、新幹線等の交通網がマヒしたため観光客が大幅に減少した。	自然災害はやむを得ないことから、今後も誘客宣伝活動を積極的に行い効果的なPR活動を展開する。		来年は北陸新幹線延伸やG8サミットの軽井沢開催などの佐久市にとってのチャンス的一年であることを踏まえ、軽井沢への観光客を佐久市まで誘客できるよう、売り込みを強化していただきたい。
39	341	工業	製造品出荷額	億円/年	2,061 [H22]	2,500	1,703	2,237	集計中	実績値なし	製造品出荷額は現在集計中であるが、目標は達成していないと思われる。	さらに、企業立地の推進と、市内工業の活性化のため、各種事業を実施していく。		光る企業を探し、創業を支援することに注力し、今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
40	351	就労・雇用	就職相談会参加者数	人/年	113 [H22]	130	73	120	110	遅れている	開催日の調整により、平成24年度に比べ、大幅に参加者が増加したが、目標は達成できなかった。	就職活動時期の変更などがあることから、実施時期の変更等の対応が必要		相談会の充実のほか、雇用してくれる企業の確保にも力を入れてほしい。
41			インターンシップ実施学生数	人/年	7 [H22]	15	6	10	8	やや遅れている	始まったばかりの事業のため、PRの効果などで、参加人数も増えてきたが、目標には達しなかった。今後についても、受入事業所及び参加学生へのPRが重要である。	受入事業所の登録数を増やし、参加する学生の選択の幅を広げていきたい。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
42	411	福祉のまちづくり	福祉体験教室開催回数	回/年	14 [H22]	16	10	15	16	順調	多くの学校等に事業の目的を説明し、協力を得て体験教室を開催できた。	今後も多くの学校に事業の目的を説明し、体験教室を開催することによりボランティア意識の向上を図る。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
43	412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業の延べ参加者数	人/年	19,095 [H22]	23,500	20,000	20,857	23,781	順調	二次予防高齢者施策では、介護予防に対する保健師・看護師の訪問体制の充実、職員のアプローチ技術の向上により、該当者の介護予防の必要性について理解が得られやすくなったことから、介護予防ふれあいサロン事業の参加者が増加した。一般高齢者施策では、積極的なPRを地区サロンや広報等で行ったことに加え、現に参加者の満足度が高いことから、参加者を通じた口コミによる伝播により、各事業の参加者が増加した。	今後もこの水準を維持していきたい。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
44	413	障がい者福祉	相談支援事業実施事業所数	事業所	5 [H22]	20	11	11	12	順調	障がい者の福祉に関する様々な問題について相談に応じ、福祉サービス利用のための情報提供等を行う関係機関と支援会議を行うなかで、相談支援の充実が図られてきている。 【参考】平成25年度末、主たる障がい対象別相談支援事業所数 身体・知的・精神障がい8、知的障がい3、精神障がい1	相談支援事業所及び相談支援専門員等との連携協力するなかで、一人でも多くの相談支援専門員の資格取得をお願いし、障がい児(者)にとって必要な支援やサービスを提供し、満足度を高められるよう事業を実施していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
45	414	母子父子福祉・低所得者福祉	高等技能訓練促進費・自立支援教育訓練給付金受給者数	人/年	4 [H22]	6	5	5	5	順調	広報への掲載回数を年1回から2回に増やし、制度の周知に努めたことにより、受給者数が順調に推移している。	母子家庭等の経済的な自立を支援するため、広報への掲載を適宜増やし、諸制度の周知と利用拡大を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
46	421	健康増進	びんころステーション延べ参加者数	人/年	1,715 [H22]	2,000	1,080	1,829	1,286	遅れている	野沢山門市は、観光客の方が多く市民が少ないため開催回数を減らした。また、冬季は戸外での開催のため、健康相談にふさわしくない環境であることから冬季の開催を減らした。平成25年度は保健補導員の全てのブロック研修14会場でびんころ食の試食を含めた栄養講話(びんころステーション)を実施し、研修で興味を持った補導員の方が地域でも企画をし、びんころステーションを行った回数が多かったため、増加したと考えられる。	市内全域で活動している食生活改善推進協議会や保健補導員などとタイアップするとともに、若い世代へは小中学校の給食を介しながら、市内全域、さまざまな世代へびんころ食を通じた食育活動の拡大を図り、びんころステーションの開催数を伸ばしていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
47			3歳児のむし歯保有率	%	26.71 [H22]	20.00	20.89	24	25.12	やや遅れている	むし歯判定の基準について、長野県の通知により平成25年度から「サホライド塗布歯」の扱いを、サホライド塗布の有無ではなく、脱灰の有無により判定をすることとなったためと考えられる。	子どもの歯の教室や公民館主催の乳幼児学級、子育て支援課主催の子育てサロンなど、親子で参加する機会を活用し、歯科衛生士による歯予防のための歯科指導を行い、むし歯保有率の減少を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
48	422	保健活動	メタボリックシンドローム該当者・予備軍の割合	%	25.2 [H22]	15.2	26.6	21	集計中	実績値なし	現在集計中であるが、平成26年9月4日時点での速報値は25.4%となっていることから、割合は大きく変化していないものと思われる。	医療機関との連携を図るとともに、特定保健指導や結果報告会での指導においては、フードモデルや手づくりの教材を使用することで、市民が自らの生活習慣の改善がイメージしやすい保健指導を心掛ける。また、保健指導を行う者についても、研修会に積極的に参加し、月1回の学習会で事例検討や国の動向、佐久市の現状等を把握し、スキルアップを図っていく。		
49	423	医療	浅間総合病院第二次整備事業進捗率	%	0 [H22]	100	5	40	7.00	遅れている	国の交付金事業である地方都市リノベーション事業採択のため、事業スケジュールを変更したことにより当初計画と比べ事業進捗が遅れている。	H29.3新中央棟開院という新たな事業スケジュールの管理を徹底するため、工事受注事業者との綿密な打合せにより、事業進捗を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
50	424	医療保険・国民年金	国民健康保険税収納率(現年課税分)	%	90.26 [H22]	100	92	94	93.48	概ね順調	督促・催告状の発送・臨戸訪問・全職員での滞納整理による税収の増、未申告者への申告勧奨での適正賦課	督促・催告書の送付及び臨戸訪問、全職員での滞納整理、未申告者への申告勧奨を行う。国保税を中心とする専任徴収員の配置を検討する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。専任徴収員の配置については、単に検討に留まらず、ぜひ実現して欲しい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
51	431	母子保健	こんにちは赤ちゃん事業における新生児訪問率	%	96 [H22]	100	98	98	98.00	順調	母子手帳交付時、パパママ教室時、出産での入院時、出生届出時等の機会に訪問についての説明を実施しているほか、出生届出時に配布する赤ちゃん手帳へ記載をしているため、赤ちゃんが生まれれば、保健師・助産師による訪問を受けるものだという意識が浸透していると思われる。	生後4か月以内に訪問できるよう、母子手帳交付時、パパママ教室時、出産での入院時、出生届出時等の機会に対象者全員に必要性を丁寧に説明していく。また、訪問不要の方については、その理由についてアセスメントし、対策を講じていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
52	432	子育て支援・児童福祉	子育てサロンの延べ利用者数	人/年	7,908 [H22]	8,300	8,753	8,065	8,857	順調	育児講座や親子遊びの充実により利用者数が増加した。	育児不安の軽減を図るため、利用者アンケート結果や要望等についてスタッフ会議で検討し、事業に反映する。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
53	つどいの広場の延べ利用者数		人/年	15,099 [H22]	15,800	14,370	15,379	14,206	遅れている	大雪の影響で開催日数が減少し、昨年度より参加者数が若干減少した。(H24:628回→H25:614回、14回減)	・参加者の要望が多い「リトミック」を平成26年度から実施し、また、ベビーマッサージについては、乳児の参加が少なかったことから、幼児まで範囲を広げ、「ベビー・キッズマッサージ」として実施するなど、参加者からのアンケート調査を基に改善点についてスタッフ会議で検討し、参加者の増加を図る。 ・子育てサークル等の活動実態を把握し、場所を提供するなどの活動支援を行う。 ・県と連携し、仕事に対する不安や悩みを抱えた子育て世帯の女性に対して相談支援を行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
54	児童館の延べ利用者数		人/年	303,975 [H22]	319,000	280,265	309,985	273,510	遅れている	児童館の減少に加え、各児童館で開催されるイベント等の内容や開催回数を利用者の希望に必ずしもマッチしていなかったことが、利用者数の減少につながったと思われる。魅力あふれる児童館づくりを行うことが課題であると考え。	平成25年度の養護学校児童生徒の受入実績がないことから、養護学校PTAとの懇談会において保護者の希望等をお聞きし、児童館の受入体制等について検討を進める。また、児童に行事の企画に参加してもらうなど利用者が継続的に楽しく来館できるように工夫を図るとともに、児童館の職員の質を向上させ、保護者が安心して子どもを児童館に通わせられる環境を整える。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。特に、児童館ごとの利用者の分析により、適正な受入体制を整備して欲しい。	

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移							結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度			評価				
								目安値	実績値						
55	511	環境保全	市内家庭の総消費電力	Mkw/年	239,143 [H22]	191,315	234,346	215,230	232,069	やや遅れている	省エネやクールシェア・ウォームシェアについての広報により、市民においても省エネ行動は意識されていると考えられるが、近年の異常な暑さや、積雪量の増加などもあり、生活習慣の中で必要なエネルギー使用量が一定化されてきている。	近年の異常な暑さや、積雪量の増加なども勘案しつつ、市の広報やホームページ、FM放送などにより周知を強化するとともに、省エネ住宅・省エネ機器の導入促進につながる助成などを検討していく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
56	512	街並み緑化・公園・景観形成	平尾山公園の入場者数	人/年	411,947 [H22]	420,000	386,238	415,168	348,927	遅れている	夏場における猛暑、2月の大雪とそれに伴う高速道路の通行止め及び高速道路料金割引制度の変更等の社会情勢の影響を受けたため、平尾山公園の入場者の減少が見られた。H21から公園の入場者が減少する中、25年度の昆虫体験学習館の入場者が夏季に限ると700人程増えている。	公園利用者の増加を図るため、公園のイベント、企画展等に対するニーズの把握に努め、より効果的な企画を実施するように、公園管理を行っている指定管理者と協議をする。また、公園開設から約20年が経過し、施設の老朽化が見られることから、公園施設長寿命化計画に基づき施設の更新を順次行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
57			都市公園の整備面積	m ² /人	7.94 [H22]	9.82	8	9	8.49	概ね順調	市民交流ひろばの開園、佐久総合運動公園補助競技場等の整備により公園面積は増加している。	佐久総合運動公園の整備を計画どおり進めていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
58	521	環境衛生	家庭系ごみの排出量	t/年	21,384 [H21]	19,591	20,297	20,667	19,621	順調	資源物が減量している一方、分別不足により可燃・埋立ごみは増加している。	市民に対し可燃・埋立ごみの分別徹底を啓発強化し呼びかける。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。	
59			事業系ごみの排出量	t/年	5,296 [H21]	4,670	5,754	5,046	5,705	遅れている	資源物・可燃ごみ共に分別不足により増加している。	事業所によるごみの排出計画書の提出時や事業系ごみ袋の購入の際に、窓口でごみの減量・分別徹底を啓発したり、ごみの資源化により排出量を減らすよう指導するなど、啓発を強化する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
60	522	上水道	上水道有収率	%	84.0 [H22]	90.0	84.2	86	83.7	遅れている	平成25年度は83.7%となり、前年度と比較して0.5ポイント下回り、施設の老朽化等による漏水量の増加が考えられる。	水資源を有効に活用するため、マッピングシステムを用いて有収水量や配水量を的確に把握するとともに、漏水調査を継続的に実施する。また、配水管網全体のうち、耐用年数を超過しているものは残り17.8%(佐久水道企業団管内の集計)となり老朽管の更新事業を進めているが、老朽化した給水装置からの漏水が多いとも考えられることから、これらの給水装置の更新を促進する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	
61			水源余裕率	%	16.2 [H22]	22.0	16.9	19	16.4	遅れている	新規水源の開発や節水の呼びかけ等の配水量の減少に資する取り組みを行っているが、いずれも大きな変化が見られず、水源余裕率はほぼ横ばいの推移となった。	将来に向け安定した水の供給を維持していくため、今後も継続的に新規水源開発事業に取り組む。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出(続き)

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
62	523	下水道	下水道整備面積	ha	2,931 [H22]	3,032	2,946	2,971	2,952.8	やや遅れている	平成25年度は西屋敷地区、荒宿地区など6.52haの整備を計画的に行い、整備面積は増加している。	財政面も含めて未整備地区の優先順位を考慮し、整備促進を図っていく。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
63	水洗化率		%	86.9 [H22]	90.9	89.5	89	90.6	順調	消費税増税の要因によって新規下水道接続件数が増加したと考えられる。	公共下水道区域の未接続世帯を対象に個別訪問を実施し、水洗化の促進を図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでももらいたい。	
64	下水道使用料収納率(現年分)		%	96.8 [H22]	100	97	98	97.0	やや遅れている	口座振替の利用の依頼により、96.8%(24年度末)から97.6%に利用率が伸び、また未納者に対する訪問や催告通知など滞納整理の強化を行ったものの、平成25年度は年度末(2月)の大雪が影響し、交通に支障が生じたため、この時期の収納率が低下。翌年度収入にずれ込んでしまったことにより、現年度分下水道使用料収納率が目標値に若干達しなかった。	口座振替を推進するため、現金納付者の納入通知書すべてに推進チラシ及び口座振替依頼書を同封。また、滞納処分を視野にいたした滞納整理強化を検討する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。	

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
65	611	防災	自主防災組織設置区数	区	230 [H22]	239	232	234	233	概ね順調	地域での会合に出向き、地域防災力を訴えた結果が表れたと感じている。	自主防災組織を現実的に設置できない地域への対応策を区長と相談し、安全・安心へ繋げる取り組みを図る。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
66			地域自主防災訓練実施区数	区	143 [H22]	239	134	181	122	遅れている	平成25年度は、中込地区が佐久市総合防災訓練の参加に代えたこともあり下降したが、全体で見ると上がってきている。	これまでは、組織編成だけに留まっていたが、新規に訓練に取り組みを始めた地域も微増している。いつくるかわからない備えではなく、いつか必ず来る備えに地域防災への高揚を図る。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。なお、訓練実施区数の算定に当たっては、地域の実情を考慮したものとして欲しい。
67	612	消防・救急	消防団協力事業所数	事業所	57 [H22]	100	93	74	96	順調	協力事業所に対する県税の優遇制度・佐久市の入札優遇制度の効果や、災害時における消防団の重要性が広く理解されてきていることが順調な推移につながったと考えられる。	今後も引き続き消防団協力事業所の募集を呼び掛けていく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
68			火災発生件数	件/年	61 [H22]	25	64	47	43	順調	火災予防のピラ配布、独居老人への火災予防訪問、気象乾燥時の野焼注意の広報等の予防消防活動により、住民の火災に対する注意が高まったことが発生件数の減少につながったと考えられる。	火災発生件数は年度により一律な減少とはいかないが、目標値に向けて予防消防活動を行っている。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
69	613	交通安全	交通安全大会、各種講習会などの延べ参加者数	人/年	10,442 [H22]	16,000	15,563	12,665	11,068	やや遅れている	実施回数は前年比増加しているものの、参加者数に減少が見られた。	交通安全市民大会、各種講習会等の開催要請を、関係機関団体に行い、教育啓発活動を推進する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
70	614	防犯	犯罪発生件数	件/年	1,079 [H22]	835	872	981	933	順調	昨年より件数は増えているが、全体的に減少傾向である。しかし、年々巧妙化する、振り込め詐欺を代表とする特殊詐欺事件が増加している。	夜間の犯罪防止のための防犯灯設置をはじめ、地域が一体となった防犯体制及び活動の更なる充実を図る。		厳密には、犯罪の発生は0件にならないと順調とは言えないと考える。さらなる努力を期待する。
71	615	消費生活	消費生活展、街頭啓発、講習会などの実施回数	回/年	35 [H22]	60	26	45	31	遅れている	老人クラブ対象の講習会が、全クラブ中、半数に留まっていることから、達成できなかった。	市内全老人クラブによる講習会の開催協力を要請する。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

No.	施策コード	施策名	目標(項目)	単位	目標の推移						結果の分析	今後の方針	備考	特記事項
					計画策定時の値	平成28年度末の目標値	平成24年度実績値(参考)	平成25年度						
								目安値	実績値	評価				
72	621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンター登録団体数	団体	- [H22]	300	97	120	120	順調	登録団体増加のための広報活動を行ったため、登録団体数が増加した。	登録団体を増やすため、ホームページ、機関紙などを活用し、広く告知する。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
73			佐久市まちづくり活動支援金事業を活用する団体数	団体/年	- [H22]	10	6	4	1	やや遅れている	佐久市まちづくり活動支援金が利用されにくい制度であったため、登録団体数が減少した。	平成25年度に利用しやすくなるよう、制度の見直しを行った。今後は、まちづくり支援金の認知度を高めるため、積極的なPRを行う。		来年度以降で遅れを取り戻せるよう、今後の方針を踏まえて取り組みを進めてもらいたい。
74	621	協働のまちづくり	各審議会など全体公募委員割合	%	3.2 [H22]	10.0	5.4	6	5.4	概ね順調	市民参加型市政の推進により、市民の関心が高まっているが、認知度が低いため、応募は平成24年度と同じ数となった。	審議会等委員の公募PR等を行い、各審議会などへの市民公募委員割合の拡大に努める。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
75	622	コミュニティの育成	区への加入率	%	87.57 [H22]	90.00	86.77	89	86.30	遅れている	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にある。	魅力あるコミュニティ活動を支援するため、区の活動費等に対して交付金を交付する。また、新たな連携の方法についても模索していく。		加入率が低い状態では、区の中で行われる災害時の助け合いにも支障が出るので、加入を増やすような策を検討していただきたい。
76	623	公共施設	新規指定管理者制度導入施設数	施設/年	1 [H22]	1	3	1	1	順調	市民交流ひろば(公園緑地課所管)の開園に伴い、新規で1件導入した。他の施設については、平成25年度において導入する施設はなかった。	指定管理者制度を導入することが効果的であると判断される施設については、各課と調整し、導入に向けた調整を行っている。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
77	624	行財政	市税込納率(現年課税分)	%	97.25 [H22]	100	97.86	98.30	98.26	概ね順調	差押処分の強化により、概ね順調な結果となった。	引き続き差押などの滞納処分を強化していく。		今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。
78	625	広域連携	定住自立圏による事業実施数	事業	- [H22]	25	31	10	32	順調	具体的な取り組みの開始から2年目を迎え、制度がより浸透したことにより、事業実施数が増えたものと考えられる。	引き続き関係市町村との連携・協力を図り、定住自立圏による事業を推進していく。	目標達成	今後も引き続き目標達成に向けて取り組んでもらいたい。

第一次佐久市総合計画後期基本計画「チャレンジ!!」の進行状況(まとめ)

※ 事務局による類型
 ■:A 「チャレンジ!!」達成済
 ■:B 具体的取り組みを実施中
 □:C 未着手(取り組みを検討中)

第1章 たくましく心豊かな人材の育成と地域文化の保存・継承と発祥

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
111	文化・芸術	文化関連施設が連携して、新たな事業に取り組むことにより、施設の魅力を高め、利用者の増加と文化振興を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	文化施設の館長等の会議を開催し、連携した取り組みの検討を行った。情報交換を行い各施設の企画等に生かすとともに、平成26年度に文化施設スタンプラリーを試行することを決定した。	平成26年度に文化施設スタンプラリーを試行する。文化施設の館長等の会議を継続し、各施設が連携した新たな取り組みを検討する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
112	地域間交流・国際交流	交流人口創出プログラムの実施により、1000万交流圏の観光・文化・スポーツ交流拠点づくりを推進します。	B 具体的取り組みを実施中	移住等希望者への様々な情報発信により、移住交流の促進を図った。また、友好都市等との交流事業では、首長、議長はもとより、民間レベルでの各種交流事業を促進した。	空き家バンクの充実により、移住等希望者の受け入れを図る。また、友好都市等との各種交流事業の推進により、交流人口の増大を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
113	人権尊重社会	すべての市民がお互いを尊重し、思いやる差別事象〇(ゼロ)のまちを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	・差別事象ゼロを目指し、人権意識の醸成と意識改革を図るため、小学生を対象にした「人権の花運動」や広く市民を対象として、「巡回指導事業」「人権同和教育講座」等各種学習会を開催した。 ・隣保館(人権文化センター)では、生活文化の向上と人権意識の高揚、住民福祉の向上を目指し、啓発・広報活動の実施及び各種教室を開催し交流を図った。生活人権相談員の配置により相談体制の充実・強化を図った。	・今後も、差別やいじめ、虐待等による人権侵害をなくすため、各種事業を推進し、人権意識の醸成と意識改革を図っていく。 ・隣保館(人権文化センター)では、各種事業において啓発活動を推進し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
114	男女共同参画社会	DV被害にあった時に、市役所に相談窓口があることを知っている市民の割合が100%になることを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	広報や啓発運動等を通じて、DV被害の深刻さ、また被害にあった時の相談等の周知を行った。	今後も様々な媒体、及び県、圏域のネットワークによる連携を図り、啓発を行っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
122	学校教育	中学校区ごとの教育推進会議を中心に、小学校から中学校に子どもたち一人ひとりの教育成果・課題をスムーズに引き継ぎ、小中学校間で指導の方針や方向を共有して、義務教育9年間の学びの充実を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	中学校区ごとの教育推進委員会により、小中学校間での日常的な交流の推進を図った。特に、中学校の英語科教師とALTによる小学校での出前授業、中学校区内の小中学校教師の合同研修など中学校区ごとに工夫して取り組んだ。	中学校区ごとの取り組みを継続するとともに、市教育委員会では、児童生徒の一層の学力向上を願い、学力向上会議、(小中学校)研究主任会議などを通じて教師の指導力の育成を図っていく。また、一人でも多くの不登校生が学校に戻ることができるよう不登校となっている子どもたちを温かく支援していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
123	高校教育・高等教育	本市の環境を生かした高等教育機関の誘致など、高等教育機会の拡充を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	高等教育機会の拡充策として、奨学金の貸付を通じた高等教育への就学支援を行った。	本市に適した形で高等教育機会の拡充を推進できるような環境整備を進める。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
124	青少年の健全育成	家庭・学校・地域・関係団体との連携を強化し、青少年を健全に育成する地域づくりの取り組みを充実させます。	B 具体的取り組みを実施中	家庭・学校・地域・関係団体との連携を強化するためには、育成推進員・補導委員としての自覚を持ち、地域へ出て広く市民に青少年健全育成活動を広げて行くことが重要である。そのためには各委員の資質の向上が不可欠となるので、研修会や関係団体との合同活動等を実施した。また、青少年健全育市民集会の実施により、広く市民に啓発した。	今後も研修会や合同活動等の場を提供し、育成推進員・補導委員が地域で充分な活動が出来るよう支援することで、取組を充実すると共に、引き続き青少年健全育市民集会を実施し、市民に啓発していく。	「家庭の日」の普及をはじめとする青少年健全育成の啓発活動に力を入れてほしい。
131	生涯学習	周辺市町村との連携により、公共図書館の広域ネットワークの構築を目指します。	C 未着手(取り組みを検討中)	佐久地域定住自立圏検討部会(社会教育部会)において、定住自立圏により推進する具体的取組として、図書館ネットワークシステムの構築について検討したが、取組まないとした市町村が多く、すぐに取り組むことは難しい状況である。	各市町村において、図書館システムの構築方法、契約年数等や、利用登録についての制限等の違いがあるため、現状では難しい状況であるが、時間をかけての検討が必要と思われる。	周辺市町村との合意形成ができるよう、引き続き協議を進めてもらいたい。
132	スポーツ	全国大会などで活躍が期待される競技者の育成を促進するとともに、一流のスポーツに触れ感動する機会の充実を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	AO長野バルセイロのホームゲーム開催を市広報誌やFMさくらだいらを活用して、地域に呼びかけるなど一流のスポーツに触れ、感動する機会の提供を行った。	佐久総合運動公園陸上競技場や総合体育館、整備予定の武道館を活用し、競技者の育成を図るとともに、一流のスポーツに触れる機会を企画立案していく。	南長野運動公園の改修が終わり、長野バルセイロのホームゲームが佐久市で開催されなくなった場合も、引き続き交流試合などを佐久市で開催できるような取り組みを進めてもらいたい。

第2章 ネットワークで築く地域の個性・特色を生かした多機能都市づくり

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
211	高速交通ネットワーク	松本・佐久間の地域高規格道路の建設実現を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	松本地域、上田地域及び佐久地域を地域高規格道路で結び、各地域の交通と産業経済の発展を図るために関係団体によって組織化された同盟会を通じ要望活動を行った。	国における広域道路整備基本計画に地域高規格道路としての位置付けがされるよう国及び県に要望活動を行う。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
212	地域交通ネットワーク	市民の日常生活に必要な交通移動手段を確保・維持するため、民間交通事業者、市民と一体となって地域公共交通の充実に取り組みます。	B 具体的取り組みを実施中	市内公共交通の運行状況の検証に基づく運行ダイヤと運行経路の改正、利用者対象乗車ヒアリング調査、全市民対象アンケート調査、公共交通に関する懇談会、利用促進のための乗車体験会、利用促進と利便性向上のため市内巡回バスにバリアフリー車両3台の導入などを行った。	・公共交通の利用者数は年々減少傾向を呈しているため、これに伴い運賃収入の減少が見込まれ、市の支出は増加すると認められる。 ・利用者数が少ない路線の廃止	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。特に、公共交通機関の利用に転換を図り、より効率的な交通体系を構築できるよう、研究を進めていただきたい。
221	土地利用	産業の活性化、雇用の増大を目指し、土地の有効利用を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	国土利用計画の方針に沿って商業集積及び企業誘致が図られるよう市内適地について全庁横断的な体制で協議、検討を行った。	中部横断自動車道の佐久南IC以降の開通や北陸新幹線の延伸を控え、商業集積及び企業誘致に好機となる時期であるので雇用増大につながる土地利用を全庁的に推進していく必要がある。	現在ある商業地の活性化の方が重要と思われる。商業地を集積させずに再構築（リストラ）を図っていくという手法も検討してほしい。全体的には、都市計画のマスタープランをしっかりと作り、計画的に実施して欲しい。
222	市街地	都市計画マスタープランに基づき、地域の特性を生かしたまちづくりを進めます。	B 具体的取り組みを実施中	土地区画整理事業により、小規模で事業効果が得られる箇所や手法を検討した。	事業と地権者要望との調整を図り、同意を得て、事業計画・換地設計等に着手する。	市街地整備の様々な手法を検討する中で、具体的な取り組みが始まるよう、進めてほしい。
223	住宅・宅地	公営住宅の管理方法について、指定管理者や管理代行制度などを研究し、効果的な手法を導入します。	B 具体的取り組みを実施中	平成24年10月から公営住宅については管理代行制度で、平成25年4月1日から公営住宅以外の市営住宅について指定管理者制度による管理方法に移行した。	今後は、管理代行と指定管理の業務内容の効率化を推進する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
231	高度情報通信ネットワーク	市内の（市外でも）どこでも市役所とつながる、「電子自治体」を実現します。	B 具体的取り組みを実施中	電子申請で手続きができる項目数の増加を図った。	年々利用者も増加していることから、市民のニーズは高いと思われるので、より一層利用できる項目数の増加と利用促進の広報を行っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第3章 100万経済圏を目指した産業基盤の強化と新たな産業の創出

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
311	農業	本市の風土や条件に適した新品目の導入を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	新品目導入試験圃場において青大豆「あやみどり」、カモミールの栽培、耕うん同時畝立て播種を行うなど、収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験を実施するとともに、見学会、体験会を開催し、普及啓発を図った。	試験圃場における、収益性の高い転作作物の実証と新技術の導入試験を継続実施するとともに、優良品種の選定や栽培方法の実証を進める。また、「信州の伝統野菜」として選定された「佐久古太きゅうり」などの産地化を推進しブランド化を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
312	水産業	佐久鯉の消費拡大のために、新しい調理法や新商品を開発します。	B 具体的取り組みを実施中	鯉の持つ栄養価などの特長を知っていただくために、料理教室やレシピ本の作成を行った。	商業・観光業と連携した水産業の多面的な振興を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
313	林業	地場産材であるカラマツ材などを公共施設などに活用し、地場産材の利用を推進します。	B 具体的取り組みを実施中	平成24年度に策定した「佐久市公共建築物・公共土木等における木材利用促進方針」に基づき、市が行う公共事業は、できる限り地域材を利用することを周知した。	市が実施する公共事業における地域材利用の推進を通じて需要が生まれることにより、森林整備を促進していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
321	商業・サービス業	商店会組織の機能強化と活性化を図り、地域商店街の魅力を向上させます。	B 具体的取り組みを実施中	各商店会組織が行う「まちおこし事業」等に対して、継続して支援を行った。また、地域商店街活性化法の認定を受けた岩村田本町商店街振興組合及び中込商店会協同組合については、国の補助対象事業に上乘せ補助をすることにより、集中的に支援を行った。	引き続き、商店街が自主的に実施する各種事業に積極的に支援するとともに、空き店舗解消のための補助金を創設し、魅力ある商店街の形成を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
331	観光	市民交流ひろばを活用した大型観光イベントを実現します。	B 具体的取り組みを実施中	市民交流ひろばでは、バルーンのパルーン体験による誘客のためのPRを行った。	各種イベントに積極的に参加し、首都圏、北陸、中京圏などにおける誘客宣伝活動など、積極的かつ効果的なPR活動を展開し、着地型観光を推進する。	全県レベルで見ても佐久地域ほど観光に一生懸命な所はない。これまでの取り組みによって多くの観光資源・素材が発掘されたので、その発信方法を工夫し、観光客とともに素材を磨き上げていきたい。
341	工業	企業立地を実現させるとともに、医療・健康・福祉関連産業の創出と集積を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	企業立地については、産業立地推進員の企業訪問により、迅速な対応の結果、平成24年度に2社、平成25年度に1社の立地に成功した。しかし、製造工場の海外移転等が進み国内での企業誘致は大変厳しい状況にあるため、業種を絞った企業誘致が行えていない状況である。既存企業の新産業創出のためのものづくりへの支援も実施した。	国内での立地動向がある内需産業としての、食品、医療、健康、物流への企業訪問を増加し、企業立地を推進するとともに、既存企業への新産業創出を支援していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
351	就労・雇用	地域内の働く場と雇用機会を確保し、新規学卒者の地元企業への就職を促進します。	B 具体的取り組みを実施中	雇用確保・安定のために、関係機関との連携も含めて、支援を行った。	雇用情勢は改善しつつあるが、商工業だけではなく、農林業や介護・福祉などの新たな成長産業などへも、その時の状況に対応した支援策を検討していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
411	福祉のまちづくり	全地区が災害時住民支え合いマップを完成し、必要に応じて見直し更新を行います。	B 具体的取り組みを実施中	平成25年度末において、240区中213区でマップが作成された。	今後も社会福祉協議会等を通じて支え合いマップの目的や使用方法について説明するとともに、マップ未作成の地区においてはその作成を、既作成地区においてはその見直しを促進する。作成区においては、区での防災訓練時において支え合いマップ等を利用した避難訓練等の実施について働きかけを行う。 なお、支え合いマップの作成に当たっては、プライバシーに配慮するとともに個人情報の取り扱いについて、社会福祉協議会等を通じて指導していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
412	高齢者福祉・介護保険	介護予防事業を通じ、健康寿命を延ばします。	B 具体的取り組みを実施中	介護予防事業は22事業を実施した。そのうち、「75歳お達者訪問指導」は、対象高齢者（介護保険を利用されていない方）876人に訪問を実施し、後期高齢者の介護予防や健康の維持増進について指導及び相談を行った。 一般高齢者向けの参加型事業は、「はつらつ音楽サロン」「転倒骨折予防事業」「はつらつ水中をウォーク」など5事業を、実施し2,453名の参加があった。 また、保健師・栄養士・健康運動指導士が地区に出向き介護予防の講義や実践指導を実施した。	保健・医療・福祉・介護の各分野の連携を図り、高齢者を支援していきます。また、高齢者自身が支え手になり、介護予防を実践していける体制を整備・推進していきます。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
413	障がい者福祉	障がい児・者及び家族に対するライフステージに応じた一貫した相談支援体制の充実を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	障害者総合支援法に基づく指定特定相談支援事業所・相談支援専門員の拡大について、障害福祉サービス事業所に働きかけた。 平成25年度末現在の相談支援事業所数11、相談支援専門員20名 計画相談対象者数（障がい者）732人（児）150人 計画作成済み（障がい者）357人（児）35人 発達障害及び発達障害の気になる児童に対し、成長段階ごとに関わる支援関係者が情報を共有し、一貫した支援ができるためのツールとして作成した「サポートブック虹のかけはし」を希望者に配付した。平成25年度末現在の配付数は、500冊中99冊であり、そのうち22名は就学後の児者、他77名は就学前の児童であった。	障害福祉サービスを利用している全対象者に対して、平成26年度末までにサービス等利用計画を作成していくために、月例事業所連絡会議及び佐久圏域事業所会議等において、相談支援専門員研修の受講と指定相談支援事業所開設について引き続き依頼をしていく。 目標数値：平成28年度相談支援事業所数20、相談支援専門員20名 平成30年度相談支援事業所数23、相談支援専門員35名 「サポートブック」の配付については、ホームページ・広報等の周知に加え、相談場面や出生・就園・就学等ライフステージが変わる際の周知に努めていく。また、これまで配付した利用者からの声を聞き、より有効活用できるよう内容の見直しを図っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
421	健康増進	食育を通して食を大切にすることを育み、朝食を毎日食べる小学生・中学生の割合を100%にします。	B 具体的取り組みを実施中	朝食を食べている割合は、平成25年度佐久市食生活実態調査により、小学生91.7%中学生87.5%であることから、年12回広報に食育だよりを掲載し、啓発活動を行った。また、栄養職員が保育園10園及び全小中学校を訪問し、紙芝居や講話を通じて朝食摂取の必要性を啓発した。	食育ボランティアの食生活改善推進員、さく・さく食育応援隊の育成や、小中学校における栄養教諭、栄養職員と協働したびんびんキラリ食を介した活動を行っていく。また、これから子育てを行っていく妊産婦やその家族、乳幼児健診での栄養指導・相談での朝食に関する指導や、喫食状況の確認を強化する。 併せて、今後も、広報への食育だよりの掲載（毎月）、食育月間・食育の日に合わせてFMラジオ・CATVなどの啓発活動を行っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第4章 みんなが生涯現役で住みよい健康長寿のまちの形成(続き)

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
422	保健活動	住みやすい社会を目指し、多様な悩みを抱える方を支援する絆を拡大するなど、「生きるための支援」に取り組むことにより、自殺者0人を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	<p>(現状)平成25年の自殺者数は19名である。(内閣府)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の電話相談事業として「こころのほっとライン佐久」を開設した。相談者は483名であった。 ・毎月1回「こころの相談日」を設け、相談事業を実施した。相談者は12名であった。 ・「ゲートキーパー養成講座」「心の健康づくり講座」を開催し自殺防止の啓発活動を行った。 ＊「ゲートキーパー養成講座」の出席者は初級編89名、中級編60名、フォローアップ編72名、「心の健康づくり講座」の出席者は151名であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も相談事業は継続する。 ・相談電話をフリーダイヤル化し、より相談の環境を充実する。 ・庁内での連携や、関係各団体との連携、定住自立圏形成協定での連携を通じて啓発活動を実施する。 	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
423	医療	市民・地域・医療機関との連携・協力を進め、日常生活圏において必要なときに必要な医療サービスを受けることのできるよう地域に密着した地域完結型医療を構築します。	B 具体的取り組みを実施中	<p>初期救急から3次救急医療までの安定的な提供体制を確立するため、佐久総合病院再構築を支援してきており、その中で、医療機関同士の連携強化を図るため「佐久市医療体制等連絡協議会」を主催した。併せて、佐久医療センター開院後の医療提供体制について、市民の理解を得るために、市民を対象としたアンケート調査を実施するとともに、その結果も含め、医療機関の明確な役割分担による医療提供等について、市広報に3回シリーズで記事を掲載するなどの取り組みも行った。また、救急医療の充実を図るため、浅間総合病院内に平日夜間や休日小児に係る初期救急医療を担う急病診療センターを開設した。平成25年度の利用状況は、平日夜間が、236日開設し、1日当り4人、休日小児は70日開設で、1日当り34.7人の利用があった。また、歯科における救急医療の確保についても、佐久歯科医師会によりサングリモ中込内に休日救急歯科診療所を開設し、平成25年度の利用状況は、日曜、祝日、お盆、年末年始の74日開設し、1日当り8.1人利用があった。</p>	<p>今後も急病診療センターを継続して開設する。医療連携協議については、佐久医療センターが平成26年3月1日に開院し、医療機関の役割分担が明確になる中で、医療の安定供給を促すための連携協議を継続するとともに、正しい医療機関のかかり方等について、引き続き市民に対する啓発活動を継続する。</p> <p>また、今後については、「急性期を経過した患者の受け皿確保」及び「高齢化を踏まえ、在宅医療への移行を促進するためのリハビリ体制の整備」などについて、支援策を研究、検討する。</p>	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
424	医療保険・国民年金	特定健康診査の受診率を65%まで引き上げます。	B 具体的取り組みを実施中	<p>受診の必要性の啓発に力を入れ、広報掲載(5回)や、FMさくだら・CATVなど放送媒体を通じた呼び掛け、未受診者に対する電話(893件)・はがき(9,996通)による呼び掛け、10月の受診勧奨月間に合わせた街頭PR、保険証の一斉更新時の啓発チラシの同封などを行った。</p> <p>また、「受診券」の発送による医療機関への直接申し込みを可能とした結果、発送人数18,809人に対し2,722人が直接申し込みを行った。</p> <p>受診率は37.1%(H24確定値)から36.8%(H25見込値)へ下落しており、啓発活動については新たな対策が必要である。</p>	定期的に診療を受けている者へのヘモグロビンA1c付加検査による特定健診とみならず診療を市内医療機関と協力を図り今年度より実施。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
431	母子保健	父母への啓発活動の強化などにより、乳幼児健診受診率100%を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	<p>平成25年度乳幼児健診受診率は4月児健診99.1%、10か月児健診98.1%、1歳6か月児健診99.5%、3歳児健診98.8%である。受診率向上のために、妊娠中に実施するパパママ教室への参加を母子手帳の交付時に周知して参加を促し、教室では乳幼児健診の必要性等を啓発した。未受診者への受診勧奨を前日、当日の電話連絡、来所しない方へのはがき勧奨等を行った。</p>	電話やはがきによる勧奨で未受診の場合には、地区担当保健師による家庭訪問や子育て支援課等他課との連携により受診勧奨や未受診理由を把握することによりさらなる受診率の向上を目指す。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
432	子育て支援・児童福祉	本市の合計特殊出生率を1.6から1.9まで伸ばします。	B 具体的取り組みを実施中	<p>子どもを安心して産み育てることができるための各種施策を実施し、合計特殊出生率が1.52となった。(H24集計結果)</p>	新小学校区への児童館整備及び望月、平賀・内山地区への保育所の整備を進め、安心して産み育てることができる子育て支援環境を提供していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第5章 水と緑きらめく自然と共に生きる快適環境の創出

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
511	環境保全	市内の自然エネルギーを用いた電力自給率、3%を目指します。	A 「チャレンジ!!」達成済	平成25年12月末の時点で、市内における自然エネルギーを用いた電力自給率は、4.52%であり、後期基本計画の目標である電力自給率3%を大幅に超えた。平成24年度からの再生可能エネルギーの「固定価格買取制度」の開始に伴う太陽光パネルの設置増加や、市営メガソーラー発電所の建設、市が行っている太陽光パネル等への補助金交付による成果が出たものと考えられる。	新たに策定した「佐久市環境エネルギー重点プラン」に基づき、平成29年度までに市内の再生可能エネルギーを用いた電力自給率8%を目指していくため、太陽光発電設備に対する助成制度の改正、小水力発電施設の整備、その他の再生可能エネルギーの導入に向けての助成制度の検討、省エネ型設備等の導入促進などを行っていく。	新たな目標が達成できるよう、さらなる努力を期待したい。
512	街並み緑化・公園・景観形成	アダプトシステムによる公園管理の実施率を36%まで向上させます。	B 具体的取り組みを実施中	管理委託をしていた行政区等に対するアダプトシステムへの移行の働き掛けや広報佐久、市ホームページで募集を行い、25年度末で27公園（43%）で実施した。	25年度末で、アダプトシステムの実施率は43%となっているので、引き続き事業が継続されるように、必要となる用具や資材の貸与または支給を行うなど実施団体への援助を行っていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
521	環境衛生	1人1日あたりのごみ排出量が少ない都市、全国1位を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	生ごみ処理機等購入補助・生ごみ水切運動・マイバック運動・リサイクルと再使用の促進・環境教育の推進・事業系ごみの分別減量化と資源化推進等ごみの減量化、及び再資源化施策を継続的に推進し、市民、事業者の皆さんへの啓発により取り組んだ。	目標とするところは、大変高いものであるが、排出抑制リデュース・再使用リユース・再生利用リサイクルの3R運動の推進により、目標に向け少しでも前進できるよう施策に取り組んでいく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
522	上水道	水を自然流下方式で配ることができる地形を生かしながら、太陽光発電を導入するなどにより、環境に配慮した水道を構築します。	B 具体的取り組みを実施中	電気エネルギーなどの使用を抑制するものとして、自然流下方式を生かした配水方法を継続し、ポンプによる加圧給水は必要最低限で運用している。	引き続き、環境に配慮した水道の構築を促進していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
523	下水道	市内の全戸水洗化を図ります。	B 具体的取り組みを実施中	平成22年度より、下水道供用開始区域の未接続世帯を対象に水洗化促進の戸別訪問を行っている。	今後も戸別訪問を継続し、未接続の理由を分析し、水洗化率の向上を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

第6章 市民生活の安全確保と市民満足度の向上

施策コード	施策名	チャレンジ	平成25年度の取り組み		今後の方針	特記事項
			類型 ※	取り組み状況		
611	防災	地域ごとの特性を考慮した防災対策を推進し、地域防災の強いまちをつくりまします。	B 具体的取り組みを実施中	自主防災組織は、地域コミュニティが重要度を占めるため、防災の高揚を図るために出前講座等を通じ、各地域等で積極的な講演会等を展開した。	引き続き、「自助・共助・近助・公助」の役割について、各防災関係機関及び自主防災組織の防災組織体制力の向上を図る。更に、防災告知について、費用対効果等を検討し、充実を図る。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
612	消防・救急	消防・救急体制を充実し、市民の財産・生命を守ります。	B 具体的取り組みを実施中	佐久消防署、北部消防署の庁舎新築及び消防指令センターの整備により消防・救急体制の充実を図っている。	佐久消防署、北部消防署の庁舎については、平成26年度に竣工する予定。また、消防指令センターの整備についても平成26年度内に完了する予定。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
613	交通安全	交通事故死者数0（ゼロ）のまちを目指します。	B 具体的取り組みを実施中	幼稚園、保育園、小中学校、老人クラブ等における交通安全教室の開催、交通安全市民大会の開催、交通安全運動と連動した交通指導所の開設、年末における飲酒運転撲滅パトロール等、警察をはじめとした関係機関団体と協力して活動を行った。	交通安全運動に伴う交通指導所の開設、交通弱者（幼児児童高齢者）を対象とした交通安全教室の開催、佐久市交通安全市民大会の開催により、交通事故防止の啓発活動を行う。	講習や啓発や市民大会の実施に加え、ハード面として歩道のない道路へのグリーンベルト設置などの具体的な対応を行い、交通死亡事故0により早く近づくよう取り組みを進めてほしい。 また、高齢者の運転免許証の自主返納を呼び掛けるなど、警察と連携して交通事故防止への取り組みを進めていただきたい。
614	防犯	地域防犯体制の充実と地域住民の防犯意識の高揚を図り、犯罪のないまちづくりを推進します。	B 具体的取り組みを実施中	防犯体制については、佐久市防犯協会等の団体と連携し、地域の防犯組織が年間を通じて活動した。その活動を通して、住民の防犯意識の高揚を図った。	引き続き、行政、防犯協会、警察、教育機関、PTAなど関係機関の連携を強化し、市民総ぐるみの防犯体制、防犯環境を整備していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
615	消費生活	振り込め詐欺などの消費被害の根絶を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	・佐久市消費生活センターの運用を開始し、消費者問題相談業務の充実を図った。 ・市内老人クラブに対し、高齢者悪質商法被害防止教室の開催を行った。	・高齢者の被害が増加する傾向にある中、講習会等に参加できない高齢者に対する被害防止教育を実施していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
621	協働のまちづくり	佐久市市民活動サポートセンターを拠点として、市民活動支援のための情報ネットワークを構築し、人と人を結び心豊かなまちをつくりまします。	B 具体的取り組みを実施中	サポートセンターを設置し、ワークショップに参加した市民で構成された市民団体に運営業務を委託した。公設民営による運営の利点を活かし、市民目線での支援業務を行った。様々な市民活動を結びつける核となることを目指し、市民活動に関する情報の収集・発信、相談・コーディネート、活動場所の提供等の業務を実施した。	今後も、情報の収集・発信、相談・コーディネート等の基幹機能の充実・強化に努める。また、市民活動の活性化を図るため、様々な活動団体や市民の交流の機会を提供し、また各種講座を開催する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
622	コミュニティの育成	一人ひとりの活力により、市民同士による共助と地域の魅力を高めまします。	B 具体的取り組みを実施中	コミュニティの活性化のため、区への交付金交付を行った。区長会と行政の懇談の機会を設けるなど、連携強化に努めた。	都市化の進展と共に、区への加入率も低下しており、共助の精神は希薄化する傾向にあることから、区への活動への参加について理解が得られるよう努めていく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
623	公共施設	統廃合も含めた公共施設の適正配置と効率的な運営や維持管理を進めます。	B 具体的取り組みを実施中	平成25年度、保有する施設の現状と課題を把握することを目的とした「佐久市公共施設白書」を作成し、その結果を踏まえ、施設に関する市の基本的な考え方を明らかにするための「佐久市公共施設マネジメント基本方針」を策定した。	時代の変化に伴い、公共施設の適切かつ効率的な配置が求められているため、同種の施設の統廃合や遊休施設の有効活用など、公共施設の計画的な整備や施設に合った管理者の選定、長寿命化等の効率的な運営を推進していく。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
624	行財政	自主財源の確保対策などにより、財政力指数の向上を目指します。	B 具体的取り組みを実施中	主たる自主財源である市税等の増額を図るため、既存企業に対する各種支援のほか、新たな企業の誘致等による地域経済の活性化に資する事業に対し、予算を重点配分した。	臨時財政対策債や合併特例事業債等の交付税算入のある起債の償還費の増に伴う基準財政需要額の増、地方経済の低迷による市民税の減少や土地価格の低迷による固定資産税の減少など基準財政収入額の減といった要因により、財政力指数の低迷が懸念される。しかし、企業誘致等の施策も徐々にではあるが成果を上げつつあることから、今後も実施計画を基本として地域経済の活性化施策への予算の重点配分を継続する。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。
625	広域連携	佐久地域の中心市としての役割を果たし、佐久地域全体の魅力向上と一体感のあるまちづくりを進めます。	B 具体的取り組みを実施中	平成23年度に策定した佐久地域定住自立圏共生ビジョンに基づき、関係市町村との連携事業を推進した。また、事業等の見直しを定期的に行い、対象事業の拡大を図り、地域全体又は必要な市町村で実施した。	関係市町村との連携・協力による取り組みを推進し、圏域全体の生活機能やネットワークの強化を図る。 佐久地域定住自立圏共生ビジョンの見直しを行い、社会情勢の変化に対し柔軟な対応をする。	現在の取り組みを「チャレンジ!!」達成につなげることができるよう、さらなる努力を期待したい。

評価の仕組み及び資料の作り方について

資料 7

(1) 評価方法

整理番号	部会名	指摘箇所	指摘事項等
1	第1部会	目標	「犯罪発生件数」(614防犯)について、平成24年度に比べると、平成25年度の犯罪発生件数が増えているのに、評価が「順調」になっている。データ上誤りがないとしても、こうしたケースは機械的に評価を算出するのではなく、評価を変更した方が良いのではないか。
2	第2部会	目標	事業を進めるためにどれだけの費用を積み増したという部分が見えないと、工事の進捗率の数値だけではよく分からない。
3	第3部会	目標	評価の基準が年度を追うごとに厳しくなっているが、後の年度になればなるほどハードルが高くなるよりは、基準は毎年度同じにした方がよいのでは。
4	第3部会	目標	数値よりも福祉等のサービスを受けられる方の満足度が重要なので、去年使用したアンケートの結果もある程度反映させた評価にした方がよいのではないか。
5	第3部会	目標	単年の利用者等の数は、何かあったときにはガクンと落ちてしまうので、そういう場合でも次の年に挽回できるように、累計により評価する方法が取ればよいのではないか。

(2) 資料の作り方について(「目標」の資料2-2、「チャレンジ」の資料3-2)

整理番号	部会名	指摘箇所	指摘事項等
1	第2部会	チャレンジ	「目標」とは異なって数値目標がない項目が多いため、達成度を示す必要があるのか(典型的に)
2	第3部会	目標	H24の実績が一番右側にあるが、H22の計画策定時の値があつて次にH24の実績値というように、時系列の順に並んでいた方が見やすい。
3	第3部会	目標	H24の目安値や進行状況も記載し、H24の進行状況も分かるようにした方がよい。

整理番号	部会名	指摘箇所	指摘事項等
4	第3部会	目標	H24、H25と数字を並べていくように作り変え、目安も年度ごとに設定し、5年間の動きが分かるような評価に改めてほしい。
5	第3部会	目標	言葉でただ「順調」と記載するだけでなく、各項目のTの値(進捗率)も記載してあった方が、進捗状況が分かりやすい。
6	第3部会	目標	今年度は達成していても最終年度はどうなるか分からないので、「目標達成」と書くのはどうか。(途中が順調でも最後に大幅に落ち込むこともあり得る。)
7	第3部会	目標	「目標」、「チャレンジ」ともに、取組状況などについては、数値も入れる等できるだけ具体的に記載することが必要。

(3)その他

整理番号	部会名	指摘箇所	指摘事項等
1	第1部会	チャレンジ	目標設定を高くし、最終的には市民のために総合計画を達成できるように取り組んでいくとのことなので、具体的事業を実施するだけで良しとするのではなく、達成するために今後何をすべきかを考えてほしい
2	第3部会	目標	目標は絶対変えないということではなく、取り扱いは柔軟に変えていってよいと思う。
3	第3部会	目標	新たな目標を追加していったらどうか。(後期基本計画P.103「ボランティア登録数」P.105「要介護度別認定者数」などを「目標に準ずるもの」として毎年の進行状況を見る)